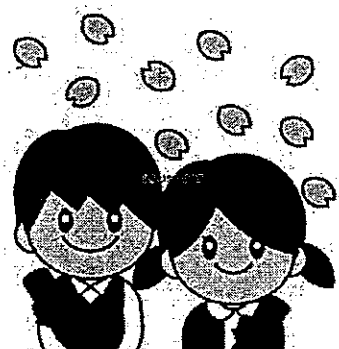




もうすぐ卒業式。3年生は3年間の思い出の詰まった本校に別れを告げ、それぞれの新しい場所へと旅立っていきます。これからどんな出会いがあるのか、楽しみです。新しい場所で、新しい人との出会い。そしてまた、新しい本との出会い、新しい自分との出会いもぜひ楽しんでください。

2つのコンクール受賞者 発表!!

第62回青少年読書感想文奈良県コンクール

研究会賞受賞 2年1組 細木 雄斗 君

～夢をかなえるゾウ～

タイトル「私は夢をかなえるために考えない」 水野 敬野 著

「お前なあ、このままやと2000%成功でけへんで」と、ダメダメなサラリーマンの前に突然現れた、関西弁を喋るゾウの姿をした神様「ガネーシャ」。成功するために教えられたことは、「靴をみがく」とか「コンビニで募金する」とか地味なものばかり。夢をなくした“僕”と史上最悪の“師匠”が漫才のように繰り広げる、「笑って」「泣けて」「ためになる」実用エンタテインメント小説。

自分の将来の夢も描けず、毎日同じようなことを繰り返し、ゴールの見えない道をただひたすら歩いているような、そんな日々を送っていた細木君。偶然にもこの本に出会い、大きなヒントを与えてもらったようです。色々考えるのをやめて、その代りに自分が好きなことや、やりたいと思ったことをすぐに行動に移すということ、色々なことに挑戦することこそが大切だと教えられました。そして今、ガネーシャから出題された課題を少しずつ実行し、自分の夢を描き、動き出しているようです。

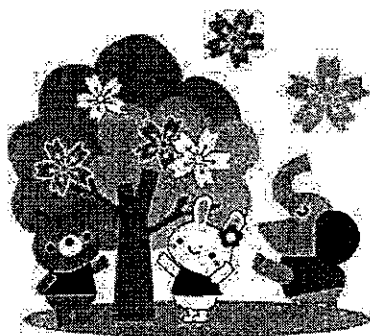
第34回読書感想画奈良県コンクール

優秀賞 3年F組 肥田 美咲 さん

～ブレーメンの音楽隊～

タイトル「夜の始まり」

本を読み、その感動を絵画で表見する読書感想画。今年も力作揃いだったようです。肥田さんは3年連続の挑戦で、3年連続の受賞。今回は、有名なグリム童話の1つの作品からイメージした絵画で、最高の賞をいただきました。おめでとうございます。



怪笑小説

著者名: 東野圭吾 出版社: 集英社

この本は東野圭吾のユーモア短編小説集である。
『〇笑小説』シリーズの1作目になる作品だ。
この作品には鬱積電車、満員となった電車の中で未だ大の鬱積された思いが交錯する奇妙、徹おせい、鬼子と野郎達にすするめに、知恵から特訓をさせていくなど、面白い話があります。
この2つのほかに、たくさんのお話があります。
怪笑小説というタイトル通りこの作品は読んでいて、クススと笑ってしまうような本です。
特にオチかともよくて、フワフワクススしてしまいます。
とてもおもしろい本なので皆さんも読んでみてください。

2年B組



1年E組

私の紹介する本は「この闇と光」というタイトルで

あらすじは、「森の奥に囚われた盲目の王女レイアは、父王の愛と美しいドレスと花、牛乳と蜜に囲まれて育ちました。はるか昔、ある日、そのすべてが奪われ、混沌の中で明らかになったのは、恐ろしい事実でした。」



感想は、最後の部分が、衝撃の結末でした。

おすすめ理由は、読書マター、レビュー数TOP10に入っていてラストに驚く本で第一位だったからです

本のタイトル、この闇と光、著者名、服部まゆみ、出版社、KADOKAWA



1月の図書館利用状況

1年生	2年生	3年生	合計
41人	28人	59人	128人

3年生は一般試験を控え、受験勉強に励んでいる生徒が多いようです。あともうひと踏ん張り、頑張ってくださいね。1,2年生も、もう少しで学年末テストが始まります。有終の美を飾ろう。